

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3990500013
法人名	合同会社 まんさくの里
事業所名	グループホーム まんさくの里
訪問調査日	平成 19 年 11 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 19 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3990500013		
法人名	合同会社 まんさくの里		
事業所名	グループホーム まんさくの里		
所在地 (電話番号)	土佐市塚地字一貫地331番地1		(電話) 088-854-1575
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	平成20年2月19日

【情報提供票より】(19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 17.2人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / ■単独	■新築 / 改築
建物構造	木 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	■無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84.2 歳	最低 64 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊与木クリニック、内田脳神経外科、ひろせ整形クリニック、塩田歯科 2
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

車の往来が頻繁な道路に面し、まんさくの花の黄色の看板が目につく平屋建ての事業所である。訪問時、入れたてのコーヒーの香りと和やかな利用者に心地よく迎えられた。理念を持って開設した管理者、計画作成者3人がしっかりとスクラムを組み、介護度の高い利用者もおられるが、利用者の残存能力を大切に、事業所内では車椅子を利用しないように、手引きしたり歩行器を使用してADLの維持に努めている。職員も熱意を持って真摯に取り組んでいる。事業所を退所した利用者、事業所での生活の思い出をDVDにして贈り、家族に喜ばれており退所後の配慮もしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善点については、職員の意見を聞きながら改善計画を立て実行している。個別記録は、利用者の状況をより正確に詳しく、また利用者の過去の経験を生かしたケアを提供するために過去のエピソードを記録し共有するようにしている。今後利用者一人ひとりの生活歴や意向の把握に継続して取り組むことを望む。行政との関わりは、まだ少ないと自己評価しており、今後の積極的な取り組みを期待する。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義については理解しているが、自己評価は管理者と計画作成担当者でまとめ、職員との話し合いをしていない。自己評価に、運営者、管理者、職員で話し合い取り組むことは、業務の見直し、事業所で提供するサービスの質を見直す良い機会と捉え、今後全員で取り組むことを期待する。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月に1回開催。委員には、地区長、地区老連会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、管理者・職員で構成されており、事業所側からは、現状、外部評価の結果やイベント等が報告され、地域包括支援センターからは生き生き百歳体操、栄養指導の情報、老人クラブからは老人会への誘いなど双方向的な会議になっている。また記録も取って整理できている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪する家族には声を掛け、面会の少ない家族には電話で利用者の状況を話している。苦情箱を置いているが、苦情はない。苦情があれば、苦情を良い機会として捉え改善に取り組むようにしている。家族会はあるが、今まで開催は1回のみ。家族には事業所にお世話になっているという思いから、意見や苦情を出すことに遠慮がある。事業所側からも、家族会や、家族同士の集まりの場を工夫して設定し、意見の出しやすい方策を検討されたい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入していないが、情報は町内会に加入している管理者から得ている。地域の清掃活動や神社の掃除に職員が参加し、利用者1~2名は公民館で開催している生き生き百歳体操に参加、今後、利用者が地区老人クラブに入会するように準備をしている。事業所への理解、地域住民との交流を意識して、事業所も地域の一員として町内会に加入し、より身近な活動を通じて地域に受け入れられる対応を期待する。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 〔設立当初に事業所の理念を作っている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 〔事業所と利用者が地域に受け入れられることを念頭においた理念となっている。〕		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 〔月1回の職員会でも話し合い、意識づけている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されている。 〔理念を念頭にサービスを提供するときは、利用者の笑顔が絶えないように常に気をつけて声掛け等を行っている。〕		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 〔町内会には加入していないが、管理者が個人的に参加している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 〔情報は管理者から得て、地域や神社の掃除に職員が参加している。利用者1～2名は公民館で行っている生き生き百歳体操に参加、今後は利用者が地区老人クラブに入会する準備をしている。〕	<input type="radio"/>	事業所の理解、地域住民との交流を意識して、事業所も地域の一員として町内会に参加し、より身近な活動を通じて地域に受け入れられる対応を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 〔評価の意義については理解しているが、自己評価は管理者と計画作成担当者でまとめ、職員との話し合いはしていない。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 〔改善点については、改善計画を立て、職員の意見を聞きながら実行している。〕	<input type="radio"/>	自己評価に全員で取り組むことは、業務の見直し、事業所で提供しているサービスの質を振り返る良い機会と捉え、後の取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 〔2カ月に1回開催。参加メンバーは、地区長、地区老連会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、管理者・職員で、事業所からは現状、外部評価、イベント等を報告、地域包括センターからは百歳体操、栄養指導の情報、老人クラブからは老人会への誘いなど会議で話し合い双方向的な会になっている。また記録も取っている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 〔改善点、課題については、改善計画を立て、会議で報告し、取り組んでいる。〕		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 〔運営推進会議を活用して行政に事業所の実情を伝えたり、介護保険の相談をしたりしているが、より一層、事業所の質の向上を図るためにも、相談や研修の場として活用してもらおうようさらに働きかけ、行政との交流をより図られることを期待する。〕		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 〔来訪する家族には声を掛け、利用者の状況や家族状況のことを話し、面会の少ない家族には電話で話し合っている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 〔月1回の「まんさく便り」で、写真を載せて暮らしぶりを伝えたり、エピソードなどを添えて伝えている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 〔変化や問題が起きた時には、即報告している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 〔出納帳を作り、月1回定期的に報告している。〕		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 〔苦情箱が置かれているが、苦情は出てこない。家族会は結成されているが、今まで開催は1回のみ。家族会の仕組みはあるが、意見が出るような集まりとして機能していない。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 〔苦情があれば、すぐに対応し、苦情を良い機会として捉え改善に取り組むようにしている。〕	○	今のところ、家族等から苦情は出ていないが、家族は事業所にお世話になっているという思いから、意見や苦情を出すことに遠慮がある。事業所側からも、家族会や、家族同士の集まりの場を持ち工夫して意見の出やすい仕組みを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 〔引き継ぎ期間を1カ月取っており、スムーズに移行できている。〕		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 〔年1～2回は研修に参加している。研修情報を全職員に提供して、希望を聞き、参加費用の半額を事業所が負担している。年2回以上の研修参加を今後の課題としている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 〔研修報告書を作成するとともに、月1回の職員会(勉強会)で報告している。〕		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 〔県組織に加入し、研修に参加したり、情報を得ている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 〔以前から、他の事業所と交流はしており、運動会や敬老会にも相互に案内し参加している。〕		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 〔家族から生活歴を聞いたり、病院等から心身の状況等の情報把握に努めている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 〔本人の見学が難しい場合でも、家族には必ず来訪してもらい見学してもらっている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 〔管理者とケアマネ等の職員が面接している。他の職員も、来訪時に面談するよう配慮している。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 〔自分で出来ることは、自分でしてもらうようにしている。決して無理強いせず、支援が必要な場合は一緒にする。自ら清掃する男性の利用者もいる。〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 〔畑仕事の手伝いや家事では野菜の皮むきや洗濯ものをたたんだり、お互い出来ることをしながら生活している。〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 〔利用者が経験を話してくれるなかで生活の技や文化などを習うこともある。〕</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 〔本人や家族から聞き取ったことや話を「本人・家族から聞く昔話、エピソード」として記録に残し、一人ひとりの思いや希望に添えるように努めている。〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 〔職員が1～2人の利用者を担当しており、言葉かけや表情から得たことを職員で検討したり、家族等から聞き取りをしている。〕</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 〔本人と家族の思いが合致しない場合は話し合いをして、要望等を反映した計画を作成するようにしている。〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 〔月1回カンファレンスを行っている。1～2名の担当制を取っているので担当者がアセスメント、モニタリングを行い、全員で意見を出し共有し、介護支援専門員がまとめている。〕</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 〔3ヵ月ごとに見直している。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月に設定している。〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 〔入院した場合や、状態に変化があった場合は、見直している。〕</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 〔本人の状態に応じて個別に設定している。〕</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。 〔協力医療機関と訪問看護の24時間連携体制で、事業所で継続した生活が送れている。〕 <input type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 〔事業所として車3台を所有しており、通院や送迎に職員が付き添い支援をしている。外泊の場合は家族が対応している。〕	○	重度化した場合等のケアについては、今後、事業所でできる支援について、利用者、家族、職員とも十分話し合い、対応方針を検討されることを望む。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 〔 〕		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 〔終末期にはかかりつけ医と相談して対応することを、入居時に家族には口頭で説明しているが、対応方針を定めるまでには至っていない。〕 <input type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 〔利用者の状態が悪化し、レベルが下がった場合に話し合うようにしている。〕	○	重度化、終末期の対応は避けられない今後の課題であり、利用者や家族が安心して生活できるように、対応方針を定め、家族・医療機関・職員が話し合い、住み慣れた環境で対応できるように取り組むことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 〔トイレに誘導するときの言葉かけや対応にも気をつけている。手引きで部屋に誘導する時も、優しい声掛けで利用者を大切にしている支援をしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 〔職員は、日々利用者と接するので、プライバシーを守ることに気をつけている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 〔就職時に説明し、職員会でも話し合いプライバシー保護を徹底している。〕		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 〔利用者には、その日にしたいことを聞き支援している。「嫌」とか「したくない」とはっきり意思を示す利用者も多く、強要はしないでゆっくり見守り柔軟に対応している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 〔食事やおやつ時間、入浴時間など事業所の1日の流れを作っているが、利用者のペース、希望に沿うようにしている。〕		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切にしている。 〔献立づくりから、調理の下ごしらえや皮むき、後片付けまで一緒にしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 〔職員は、利用者と同じテーブルを囲みながら同じものを一緒に食べている。介助の必要な利用者の隣に座って、話しかけながら食事介助をしている。〕		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 〔2～3日に1回は入浴できるようにしている。帰宅願望の利用者が多い時期があり、入浴時間を午前中に変えて夕方は落ち着くように配慮した時もある。入浴希望の時間帯は無いが、要望があれば対応する。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。 〔言葉掛けや入浴を担当する職員を変更するなど工夫をしながら、入浴を支援している。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 〔消火器等は定期的に点検している。非常用食料・水は常時3日以上、避難セットも準備しており、地域の方からも事業所に行けば食料があると安心感を持ってもらっている。〕	○	災害時の避難等は、職員のみでの対応では限界があり、地域住民の協力が欠かせない。避難場所として事業所が候補に上がり、話し合いがされている。避難訓練等は地域住民の協力を得て実施するよう、また夜間訓練の実施も検討されることを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 〔食事量、水分摂取量はチェック表で把握している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 〔週3回は刺身を用意するほか、冷蔵庫にある材料や貰った野菜などで、利用者に希望を聞きながら、各ユニットで作っている。〕 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 〔運営推進会議の参加メンバーである地域包括支援センター職員から、栄養指導について意見があり検討している。〕	○	水分量や食事の摂取量は把握し、利用者の意見も取り入れながら作る献立は見た目も良い献立になっている。しかし、栄養士や保健師に専門的な視点からチェックしてもらうことは、栄養を数値で確認できることやアドバイスもあり、職員、家族も安心できるので検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 〔利用者が使いやすいようにソファを配置したり、すぐ手の届くところに本や新聞、掃除道具などを置いている。殆どの利用者が居室ではなく共用空間の居間で過ごして〕 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 〔居間で金魚を飼い、季節の花が生けられ、また10時にはおやつのコーヒーの香が満ちている。また利用者の愛犬が事業所の一員として受け入れられ、利用者や職員の癒しになっている。〕	○	事業所を訪問した小学生の手紙、利用者の写真や作品を展示しているが、飾りつけが多いので、少し整理するなどして家庭的な雰囲気を大事にしてもらいたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 〔使い慣れたタンス、好きな人形や写真、絵が飾られ、居心地良い自分の部屋となっている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 〔職員が、利用者本人にとって必要なものを検討しながら、居室づくりに取り組んでいる。〕		